

## 2 まちづくりに向けた課題整理

### 2-1 健康と文化の森地区の特性や優位性

#### (1) 地区にある資源、地区の優位性

##### 豊かな自然環境・美しい田園風景

健康と文化の森地区やその周辺には、藤沢市の三大谷戸のひとつである遠藤笹窪谷（谷戸）をはじめ、里山や田園の美しい風景、あじさいや彼岸花が咲く小出川など、水とみどりがあふれる豊かな自然を有しております。また、萩の寺と知られる寶泉寺などの樹林に囲まれた寺社があり、さらに高台からは富士山も眺望できるなど、守っていききたい資源、景観がひろがっております。



図 遠藤笹窪谷（谷戸）の様子



図 彼岸花が咲く小出川の様子

##### 豊かな農業環境

健康と文化の森地区やその周辺は、市内でも農業が盛んな地域であり、豊かな農業環境が広がっております。



図 地区内の農地の様子



図 地区周辺の農地の様子

### 慶應義塾大学SFCの立地

対象地区には慶應義塾大学SFCが立地しております。慶應義塾大学SFCでは、最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインを活かしながら、環境、エネルギー、格差拡大、戦争、民族・宗教対立等、ひとつの学問領域だけでは解決不可能な問題に対して、総合的に問題解決に取り組み、対策立案からその実証実験、そして結果評価まで一連の過程を通じた研究を進めております。

開設時期	1990年4月
敷地面積	約10万坪
学生数	大学 4,912名(2013年5月現在) 大学院含む 中等部・高等部 1,217名(2013年5月現在)
教員数	191名(2013年5月現在) 客員教授、訪問教員、特別招聘教員、特別研究教員等は除く
学部、研究科	総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部 政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科
主要な研究テーマ	<u>高信頼情報社会</u> ユビキタス・インフラ・通信・技術 <u>健康高齢社会</u> 身体知、ヘルスケア、ライフサイエンス <u>国際戦略</u> 政策・文化・ガバナンス <u>社会イノベーション</u> 社会・グローバル・地域・教育 <u>環境共生</u> デザイン・環境デザイン テーマは「2013 慶應義塾大学 SFC OPEN RESEARCH FORUM」より

### 慶應義塾大学未来創造塾の計画

慶應義塾大学SFCでは、隣接地に2ヘクタールの敷地を確保し、滞在型教育研究施設として未来創造塾を建設予定です。未来創造塾では、塾生と教員が寝食をともにし学ぶ場を提供すると同時に、慶應義塾大学SFCに所属しなくても地球視点での課題解決に取り組む国内外の若手研究者に解放され、真のグローバル人材の育成を行なう施設をめざしております。2015年秋に1期工事が完成予定であり、計画収容人数は180人を予定しております。2009年度から滞在型教育プログラムとハウス制度を試験的にスタートしております。



2015年秋 開設予定：左から研究棟・宿泊棟 (出典：慶應義塾大学未来創造塾ホームページ)

### 特区の指定

健康と文化の森地区は「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区」と「さがみロボット産業特区」に指定されており、これらの特区に関連した医療・健康や介護の分野についての研究開発施設や企業の集積による地域の活性化、先端技術を活用した地域の健康・医療のまちづくりの展開などが期待されております。

### 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区

目標	個別化・予防医療時代に対応した、グローバル企業による革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出を目標とする。
認定	平成 23 年 12 月 22 日（平成 25 年 10 月 11 日に藤沢市の一部を含む区域等が追加）
政策課題	個別化・予防医療を実現するための健康情報等のデータベース構築 国際共同治験の推進によるドラッグラグ等の解消と国内製品のアジア市場への展開 大学等の優れた要素技術の産業化と既存産業の医療・健康分野への展開
解決策	健診データを活用した検体バンク・検体情報ネットワークの整備 革新的な医薬品・医療機器の新たな評価・解決手法の確立と国際共同治験の迅速化 ニーズ主導のマッチングによるベンチャー企業等の創出、産業化
慶應義塾 大学 SFC での取組	・漢方、東洋医学に関するエビデンス解明のためのビッグデータ解析事業の実施 ・東西医療センター(仮称)を設置し、漢方、中医及び東西統合医療の教育、研究、臨床を実施

### さがみロボット産業特区

目標	生活支援ロボットの実用化や普及を促進していくことにより、少子高齢化社会における介護や災害時の捜索・救助など、県民が直面する身体的・精神的負担等を軽減するとともに、生活支援ロボットの実用化を担う企業の集積を進め、実証環境の充実を図ることにより、産業面から県民のいのちを守り、県民生活の安全・安心の確保及び地域社会の活性化を図り、県民満足度を高めていくことを目標とする。
認定	平成 25 年 2 月 25 日
政策課題	少子高齢化の進行により増加するニーズ(介護・医療・高齢者にやさしいまち)への対応 切迫する自然災害への対応
解決策	研究開発・実証実験等の促進 実証環境の充実に向けた関連産業の集積促進
区域	藤沢市を含むさがみ縦貫道路を中心とする 9 市 2 町
H25 の 取組	(開発・実証、企業立地スキームの確立と実施) ・重点プロジェクト ・オープンイノベーション ・全国公募など新たな実証 ・大規模実証施設の確保 ・土地利用手法の確立 ・国の規制緩和、財政支援の獲得

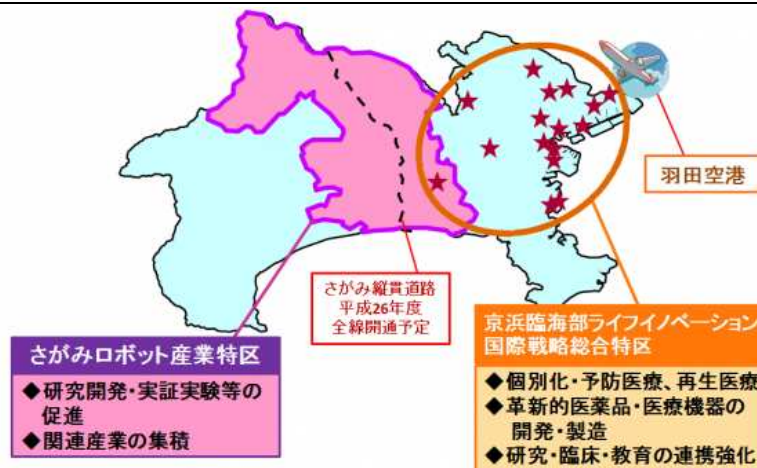


図 神奈川県内の 2 つの特区

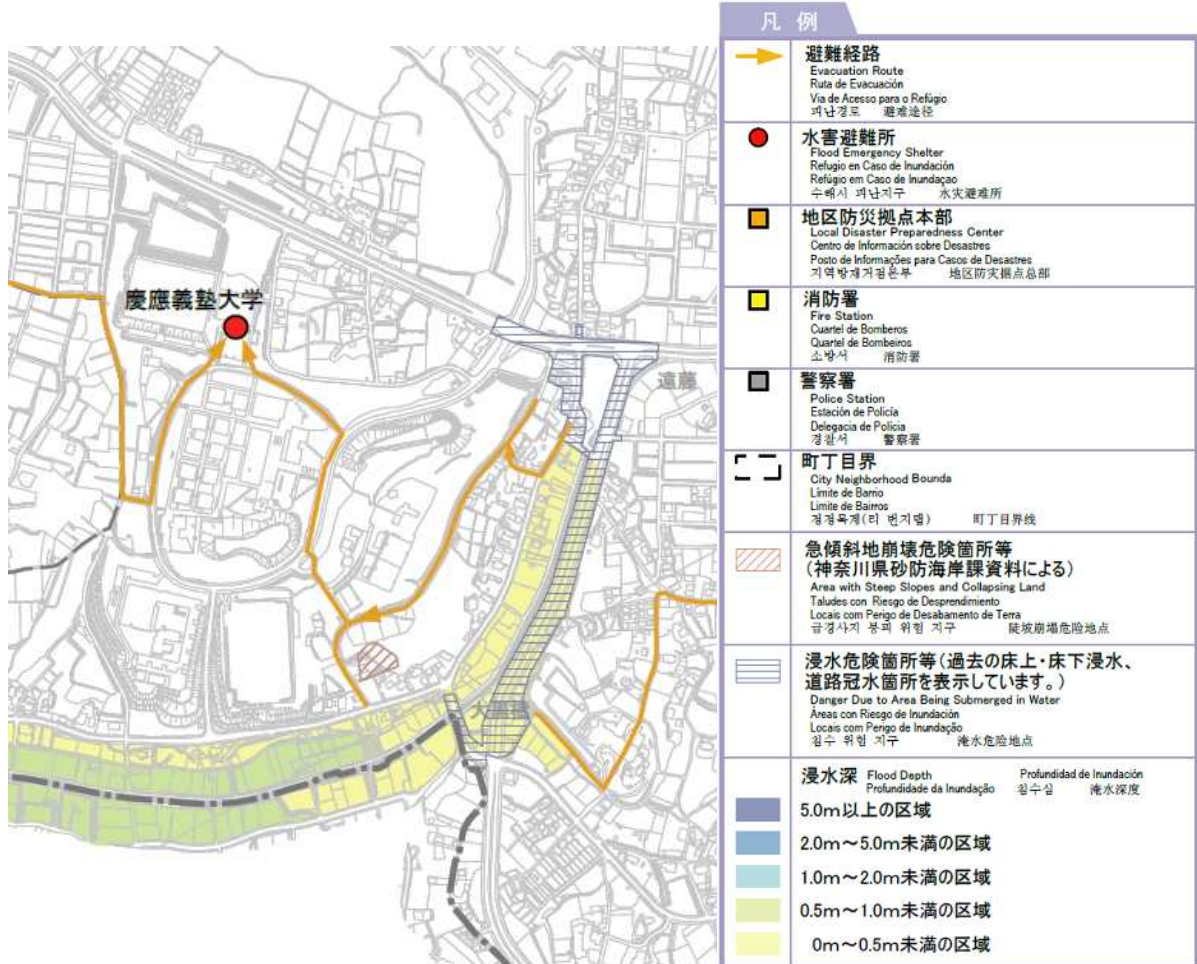
出典：神奈川県ホームページ



(2) まちづくりにあたり留意する点

浸水被害への対応

健康と文化の森地区における雨水の処理は、小出川への放流によって行われておりますが、河川改修が藤沢市域内では未着手なため、十分な流下能力が確保されておりません。このため、集中豪雨時などには慶應義塾大学SFCのバスターミナル付近からその東側の郵便局周辺、さらに小出川沿いは浸水がたびたび発生して、その対応が必要となっております。



資料：「藤沢市北部 洪水ハザードマップ」より抜粋



写真：慶應大学入口交差点付近



写真：慶應大学入口交差点南側

図 慶應義塾大学SFC周辺の洪水ハザードマップと浸水被害状況 (H25.9.15)

### 管理が行き届いていない農地や樹林地

遠藤土地改良区内やその隣接地には耕作放棄地や不法投棄された農地、手入れの行き届いていない樹林地などが見られ、良好な営農環境や農的風景が損なわれております。



図 手入れの行き届いていない樹林地の様子

### 身近な生活を支える機能の充実

慶應義塾大学SFC周辺に、食料や日用品を買うことのできる店舗、飲食店など身近な生活を支える機能はほとんどありません。このようなことからキャンパスの中は学生でにぎわっておりますが、キャンパスの周辺は、閑散とした状況となっております。

## 2-2 まちづくりに向けた課題

### (1) 地区の位置づけからみた課題

#### 広域・地域の交流や連携を促進する交通機能の確保

健康と文化の森地区は、藤沢市都市マスタープラン等において、周辺地域、藤沢市内の他の都市拠点間を結び、さまざまな交流や連携を促進する機能・役割が期待されております。

こうした交流や連携の機能を支えるため、いずみ野線の湘南台駅からの延伸をはじめとして、公共交通や幹線道路網の充実を図り、広域および地域の交通ネットワークを確立することが課題となっております。

#### 藤沢市西北部における新たな都市拠点の形成

藤沢市都市マスタープランにおいて、学術文化新産業拠点と位置づけられている健康と文化の森地区は、慶應義塾大学SFCの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術・研究機能を核として、産学公連携によるビジネス育成や国際交流の拠点が形成されるよう、広域にわたる新たな活力創造の場を創出することが課題となっております。

また、新たに創出する都市拠点にふさわしく、周辺に残る田園空間や自然環境と調和した質の高い拠点空間を形成することも求められております。

## (2) 地区の特性や優位性をふまえた課題

### 新たな産業創出や高度な教育・研究・開発が可能な地区特性の発揮

健康と文化の森地区には、環境や政策等の領域において最先端のサイエンスやテクノロジーを駆使して先進的な研究を進めている慶應義塾大学SFCが立地しております。今後、未来創造塾の開設など、よりオープンで充実した学術研究環境の強化が計画されております。

また、健康と文化の森地区や慶應義塾大学SFCは、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区やさがみロボット産業特区にも指定されており、予防医療等のための薬品や医療機器、生活支援ロボット等の研究開発、実証実験、製造等、特区指定を活かした取組も可能となります。

このように、健康と文化の森地区は、他の地域にはない先進的・先端的な研究や開発、新産業の創出などに取組むための優位性があり、こうした強みを活かし、魅力ある環境整備を進めていくことが重要となります。

### 豊かな自然や農業環境と都市的土地利用との調和

健康と文化の森地区およびその周辺地域の魅力や特色の1つは、水とみどりが豊かな自然や農業環境です。

将来的に新たな産業等の立地促進を図り、鉄道を延伸するなどして、まちづくりを進めていくにあたっては、これまで守られてきた豊かな自然や農業環境と都市的土地利用との調和を念頭に置いて、都市的土地利用への転換を適切に図り、地域の魅力を保っていくことが課題となります。また、周辺の農業振興に寄与するまちづくりも求められます。

### 雨水対策をはじめとする災害への備え

健康と文化の森地区は、大雨の際に小出川沿いなどのエリアでたびたび道路の冠水等が発生しております。

将来的にまちづくりが進み、保水力の低い都市的土地利用の割合が増えれば、冠水や浸水による被害が深刻化することが想定されるため、浸透性に優れた舗装や調整池などを整備して、水害が起きにくいまちづくりを進めることが求められております。

また、近年は予想を超えるような豪雨や降雪の発生や、首都圏における近い将来の大地震等も想定されていることから、そのような災害にも対応できるような防災施設・設備を整備するとともに、災害時の行動計画や対処方法を確立することも課題となっております。

### (3) 将来を見据えたまちづくりの課題

#### B 駅を中心とした集約型市街地の形成

健康と文化の森地区のまちづくりにあたっては、将来の人口減少社会への移行や超高齢社会の進展も見据えるとともに、周辺の良い田園空間や自然環境と調和を図るため、都市の諸機能を駅周辺に集約して拠点性を高め、誰もが自家用車に頼ることなく生活できる環境を創出することが必要となります。

また、集約型の拠点を形成することによって、自家用車に頼らず、徒歩、自転車、公共交通による生活が可能となり、環境負荷が低減されるとともに、日常の身体活動量が増加することで人々の健康の増進にも寄与し、医療費の抑制にもつながります。

#### 地域活力を持続させるための多世代の定住や来訪

健康と文化の森地区のまちづくりによって創出されるまちなぎわいや活力を将来にわたって持続するためには、高齢者ばかりではなく、若い世代も多く住み、働き、学び、余暇を過ごし、日々新たな活動や取組が生まれ、連鎖していく必要があります。そのため、いろいろな世代にとって暮らしやすい環境整備や、だれもが足を運びたくなるような魅力的な場や機会等を創出し、人々の社会的なつながりを強化することが必要です。

#### 新たなライフスタイルの提案

藤沢市南部では相模湾を資源とする海のある生活を送るライフスタイルが確立し、湘南地域のブランド価値を高めております。一方、健康と文化の森地区周辺においては、森林や農地をはじめとする都市近郊の貴重で豊かな自然資源があり、慶應義塾大学 S F C を核とする先進的・先端的な研究・教育の場や機会があることから、これら地域の強みをより増大させ、この地域での生活に積極的に取り込んだ新しいライフスタイルを提案し、発信していくことが求められております。